

Title	1940年5月の天象
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1940), 20(228): 240-238
Issue Date	1940-03-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167969
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

太 陽 この月の初めには“羊星座”の中央、

ω 星附近にあるが、東進して、14日に“牛”
の星座に侵入し、月末にはヒヤデス群の北
邊まで進む。緯度が高くなつたので、我が
地球の北半球では、晝が著しく長くなり、
夜は短い。その反対に、南半球では、漸

1940年

5月の天象

次寒さに向ひ、晝は短かく、夜は長い。この月一ぱい、平均太陽は眞太陽よりも東方にあつて、時差は2分乃至3分であり、中旬14日頃には第二極大となつて、+3分45秒に達する。6日の早暁が“立夏”で、黄経は 45° 、又、21日午後が“小満”の季節で、黄経は 60° である。2日は所謂“八十八夜”に當る。カリントンの太陽面自轉期は世界時刻2.86（日本標準時では3日5時39分）から第1159期となり、月末の30.08（日本標準時10時55分）には改まつて、第1160期に入る。諸遊星に對しては、13日に天王星と會合し、又、23日には水星と外合する。

月 本月も、月初めは“有り明け”の月であるが、7日の夜に新月となり、ブラウンの月相第215期に入る。15日早朝が上弦で、“獅子座”の西端 ϵ 星附近で起る。21日の夜は満月で、“蝸座”の西北端 β 星の北で輝やく、又、29日午前中に“水瓶座”の中央で下弦となる、地球からの距離は、3日8時に最遠となり、19日4時に最近となり、更に月末31日2時に再び最遠となる。遊星に關しては、6日の8時に木星と會合し、同日10時には水星と會合、次いで又、7日0時には土星と、8日5時には天王星と、10日22時には火星と、11日13時には金星と、17日9時には海王星と會合する。

水 星 月の上旬も中旬も“曉け”の星で、順行してゐるが、22日に太陽と外合しそれ以後は宵の星となる。しかし、一體に觀測は不便である。5日14時には木星と會合し、6日10時には月と會合、10日18時には土星の北 $0^\circ 42'$ といふ近くを通過、又、18日10時には天王星の南 $0^\circ 2'$ にまで接近する。又、24日18時には近日點を通過する。

金 星 依然として“宵の明星”で、光輝は21日に最大（-4.2等級）となり、この日の前後、白晝でも肉眼で見ることが出来る。11日には月と會合するのも見ものである。

火 星 まだ可なりハッキリと日没後の西天に低く見えてゐる。しかし、遠くて、觀望には適しない。10日22時には月と會合。

木 星 毎日の日出前の東天に、光りは強いけれど、高度が低いので、まだ觀測には適しない。6日8時に月と會合する。

土 星 朝早く、まだ太陽の光りの中にあつて、觀望は出来ない。6日24時に

月と會合、10日18時には水星の南 $0^{\circ}42'$ にある。

天王星 殆んど常に太陽と同方向にあり、13日7時に正しく會合する。本誌227號の星圖参照。

海王星 “乙女座”の西邊を逆行中であるが、停留が近づくので、速度は漸次減する。17日9時に月と會合。觀望には星圖と望遠鏡が入用である。本誌227號の星圖参照。

冥王星 “蟹座” λ 星の南を、徐々と順行し始めた。大望遠鏡さへあればまだ見える。

五月の星座 日が西に没すると間もなく、北斗と“獵犬”とが殆んど正しく頭上に位置を占め、其のすぐ南へ、子午線を越えたばかりの“獅子”と、今から其れを越えやうとする“乙女”とが、春の空に因む大星座として現はれてゐる。低い西の空には“小犬”、“双子”、“駁者”等の、冬の星々が没せんとしてゐるが、其の代りに、東を見ると、大角星に率ゐられた“牧夫”と、“冠”、“蛇の頭”など、それから、“ヘルクレス”、“龍”、“蛇遣ひ”、“天秤”あたりの星座が現はれてゐる。東北の低い天に巨星“ゼーガ”(一名は織女)が純白に輝いてゐる。全長百幾度に及ぶ“ヒドラ”と、其の北邊に“セキスタント”、“コブ”、“烏”等の小さい微光の星座を學ぶのも今が最も好い。——南方の土地に住む人々は、この春の夕べに、“センチウル”や、“十字架”等の星座を、飽きるほど眺めることが出来る。

春の天は淋しいと人は言ふけれど、それでも廣い天空を、隅から隅まで探し求めると、“レグルス”星(獅子の α)、“スピカ”星(乙女の α)、“アクトウル”星(牧夫の α)の三つのほかに、地平に近く、西に“プロシオン”星(小犬の α)と“ボルクス”星(双子の β)、西北に“カペラ”星(駁者の α)、東北に“ゼーガ”星(琴の α)、東々南に“アンタレス”星(蝸の α)など、すべて8ヶの一等星が見え、臺灣以南の土地では、なほ其の外に、センチウル座の“ α ”と“ β ”や、南十字架の“ α ”なども見え、やはり公平に吾々は一等星全數の半ばを楽しむことが出来る。

望遠鏡(なるべくは反射鏡)を有つてゐる人々には、獵犬座の M51 の如き典型的な渦狀の大星霧や、蟹座のプレセペ、センチウル座のオメガの如き素晴らしい星團、其の他、髪座や乙女座あたりには無数の星霧が見られるし、又、二重星としては、獵犬座の α 星、獅子座の α 星と γ 星、乙女座の γ 星と η 星、牧夫座の κ 星、エプ星、クシ星、ヘルクレス座の α 星等が美しく、又愛らしい。

支那の星座 については、別頁に水野氏の“天龍”の星宿のことが載つてゐるし、そこには美しい星圖もあるので、今月だけは省略する。

五月の天體曆表

日附	七曜	正午月齡	干支	天 界 現 象 (日本標準時)	ユリウス日 (21時)
1	水	23.3	甲辰	興亞奉公日	2429751.0
2	木	24.3	乙巳	八十八夜	752.0
3	金	25.3	丙午	月が地球から最遠(8時)	753.0
4	土	26.3	丁未	乙女 R 星が極大	754.0
5	日	27.3	戊申	水星と木星と會合(14時)	755.0
6	月	28.3	己酉	{“立夏” 木星と月と會合(8時) 水星と月と會合(10時)	756.0
7	火	29.3	庚戌	新月(21時07分) 土星と月と會合(0時)	757.0
8	水	0.6	辛亥	{天王星と月と會合(5時) 第三ネウイミン彗星が近日點通過	758.0
9	木	1.6	壬子		759.0
10	金	2.6	癸丑	{水星と土星と會合(18時, 水星が42' 北) 火星と月と會合(22時) 狐 R 星が極大	760.0
11	土	3.6	甲寅	金星と月と會合(13時)	761.0
12	日	4.6	乙卯	蝸 R Z 星が極大	762.0
13	月	5.6	丙辰	天王星が會合(7時)	763.0
14	火	6.6	丁巳		764.0
15	水	7.6	戊午	上弦(5時51分) 水瓶 W 星が極大	765.0
16	木	8.6	己未	白鳥 Z 星が極大	766.0
17	金	9.6	庚申	海王星と月と會合(9時)	767.0
18	土	10.6	辛酉	水星と天王星と會合(10時, 水星が2' 南)	768.0
19	日	11.6	壬戌	月が地球へ最近(4時)	769.0
20	月	12.6	癸亥	白鳥 W 星が極大	770.0
21	火	13.6	甲子	{“小滿” 満月(22時33分) 金星が極大光輝(1時) 蟹 R 星が極大	771.0
22	水	14.6	乙丑	水星が外合(5時)	772.0
23	木	15.6	丙寅		773.0
24	金	16.6	丁卯	水星が近日點(18時) 牛 R 星が極大	774.0
25	土	17.6	戊辰		775.0
26	日	18.6	己巳		776.0
27	月	19.6	庚午	海軍記念日	777.0
28	火	20.6	辛未	天秤 S 星と牧夫 R 星と射手 Z 星が極大	778.0
29	水	21.6	壬申	{下弦(9時40分) 小熊 U 星が極大 蝸 RR 星が極大	779.0
30	木	22.6	癸酉		780.0
31	金	23.6	甲戌	月が地球から最遠(2時)	781.0